



亀山市名誉市民

彫刻家
中村 晋也
Shinya Nakamura

作品紹介

ふるさとあい
vol. 123

「月光」

平成元(1989)年

アポロ計画で人類が月面に初めて降り立ったのは今から約50年前のこと。人類が昔から月を見上げ、さまざまな物語を生み出してきた「月」へのイメージは、どう変わったのでしょうか。

この作品は、月の光を浴びて緩やかに心身が整えられていく状態を表現しており、月から放たれる光の神秘的なエネルギーに畏怖し、感謝する普遍的な心情が込められています。

アルテミス計画、人類が月で活動する日も近いのでしょうか。



(高さ)157cm × (幅)70cm × (奥行)40cm
中村晋也美術館

特別協力

公益財団法人 中村晋也美術館

<https://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/>



まちかど

キラリ

山口 淳子さん
(みずほ台)



「安心を備える女性の会 CEF」代表。みえ防災・減災センター主催の「みえ防災コーディネーター養成講座」(平成26年度)と、その応用編「さきもり応用コース」(平成27年度)を修了。その後、防災士資格を取得。「CEF」の現会員は5人。女性の視点を生かし、日常に無理なく取り入れられる防災・減災活動を推進している。

女性の気づきが、地域の安心を作り出す

平成19年4月、市内で震度5強を観測した地震を体感した山口さんは、「女性の私にも、何かできることがあるはず」と考えました。後日、近所の女性一人ひとりに声を掛け、賛同した4人と一緒に市民活動団体「安心を備える女性の会 CEF(セフ)」を立ち上げました。

最初の活動は、阪神・淡路大震災の被災地を訪問し、被災者の話や被災家屋を見て学ぶことでした。そこで聞いた「女性が最も困るのはトイレ」という切実な声を受け、帰宅後すぐに段ボールで簡易トイレを制作。防災に詳しい住民から「下にバケツを置くと使いやすい」と助言を受けたことが心強かったと振り返ります。

その後も、園児や児童向けの風呂敷リュックの作り方や新聞紙スリッパづくり、市総合防災訓練でのポリ袋を用いた防災食の実演調理など、日常に寄り添う防災活動を続けてきました。

こうした活動が地域に根付き、自治会総会では女性の視点から防災品の必要性を提案。賛同を得て、地区内4カ所の防災倉庫へ生理用品などの備蓄品を配備しました。さらに、その内容をまとめた「CEF通信」を自治会全世帯へ配布(令和8年8月)し、活動の輪を広げています。

体調を崩し、解散を考えた時期もありましたが、仲間から寄せられた「休んでいい。でも活動は続けよう」という言葉に胸が熱くなり、続ける決意を新たにしました。「普段やっていないことは、いざという時にできません。日常の中で備え、やってみることが大切。他の地区にも広がってほしい」と山口さん。身近な防災を無理なく続ける「CEF」の活動は、これからも地域に安心を届けていきます。



*団体名の「CEF」は、フランス語の「Courage(勇気)」、「Espoir(希望)」、「Femme(女性)」の頭文字を組み合わせて名付けられた。